

地球環境工学研究室

こんな問題に取り組んでいます

地球温暖化や風力発電など地球規模の環境・エネルギー問題から、神田川の浄化やごみ中継所から排出される化学物質などの身近な環境問題に至るまで、「できること」でなく「やらなくてはならないこと」に取り組んでおり、そのため学生だけでなく教員も日々勉強の毎日です。

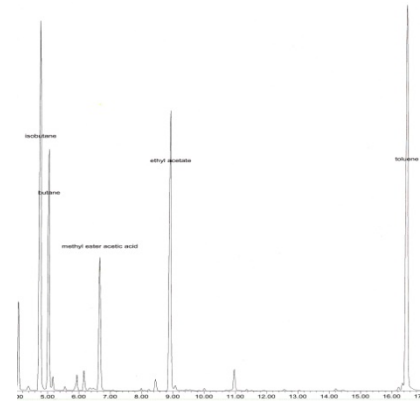
こんなことがわかってきました

不燃物の中継所で圧縮処理されるプラスチックから、多くの有害な化学物質が排出されることがわかってきました。この成果は、現在稼働中あるいは計画中的の数多くの不燃物中継所周辺の環境保全対策に広く参照されています。

研究の成果はこんな分野に活かされます

環境学は学問のための学問でなく、実際の役に立つ「実学」であるべきとの信念から、得られた成果は広く一般市民・行政に知ってもらう様心がけています。「不燃物中継所」に関する研究成果のように、身近な環境問題の解決に、また地球規模の環境問題の解決の一助に活かされるよう研究活動を続けています。

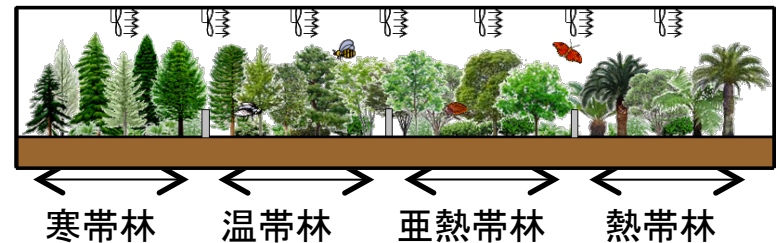
関連展示: 大気環境実験室(401号室)、地球環境工学実験室(402号室)
連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻
影本浩(kagemoto@k.u-tokyo.ac.jp) 阿久津好明(acts@k.u-tokyo.ac.jp)



プラスチックの圧縮・摩擦によって発生する化学物質



風力発電装置の実験のための風車模型



地球温暖化による地球上の植生変化を観察・予測するために建設を計画中のバイオームと呼ばれる「ミニ地球」(長さ200m、幅50m、高さ40m)(環境学研究系内の共同プロジェクト)